

アンケート結果の概要

日本呼吸器学会では、全国の 848 施設（専門医制度登録施設）を対象に、2020 年 5 月 27 日時点での COVID-19 診療に関連する、2 回目の全国規模のアンケート調査を実施した。回答は前回(2020 年 4 月 20 日時点)の 216 施設(25.5%)を上回る、47 都道府県の 266 施設(31.4%)から得られた。前回のアンケート結果と比較することで呼吸器内科医の COVID-19 診療の実態と診療環境における問題点の経時的変化が明らかになった。また各施設で実際にどのような治療薬が選択されているかを明らかにした。

【結果の要約】

- 1 全国的な流行がいったん収束傾向となり COVID-19 疑い患者の受診数は減少している。
- 2 COVID-19 診療の影響による呼吸器内科の通常診療業務縮小および COVID-19 診療による業務過多は依然として解決していない。
- 3 COVID-19 に関わる地域連携の体制は徐々に整備されつつある。
- 4 治療については軽症例に対しては約 70%が対症療法のみ、中等症では約 80%にファビピラビルが、重症例では約 60%にレムデシビルが投与されていた。また全身性ステロイド薬や抗凝固薬は重症度が高いほど使われる傾向にあり、重症例では約 50%に全身性ステロイド薬とナファモスタットが投与されていた。

【対象施設の現状】

○前回のアンケートと比較すると、いずれの感染症指定も受けていない医療機関は 57.4%→60.5%(161 施設)と微増した一方で、帰国者接触者外来を行っている医療機関は 56.9%→63.9%(170 施設)と増加した。COVID-19 流行が収束傾向となっても今後の第二波に備えて診療体制を維持している施設が多いものと考えられる。

○COVID-19 疑い患者の 1 週間当たりの外来受診数が 4 名以下の施設は 24.5%→40.6%(108 施設)と全体的に疑い患者外来受診数は低下傾向にあった。これは全国的な流行第一波が収束にあることを明確に反映したものと考えられた。

○前回のアンケートと比較すると院内 PCR が可能な施設は 21.8%→31.6%(84 施設)と明らか

に増加し、1日に40件以上処理可能な施設は4.6%→5.3%(14施設)と前回からほぼ不変だった。

○前回のアンケートと比較して人工呼吸器管理は92.6%→95.5%(254施設)、ECMO管理は33.8%→37.5%(100施設)と管理可能な施設の割合はほとんど変わらなかった。また人工呼吸器の管理可能な台数が4台以下である施設は50.5%→52.3%(139施設)、ECMOが3台以上の管理が可能な施設は9.7%→7.9%(21施設)と前回からほとんど変わらない結果であったことから重症例の診療体制の拡充は進んでいないことがわかった。

○COVID-19診療における地域連携についてはできている、おおむねできていると回答した施設は55.1%→67.6%(180施設)と増加しており各地域で診療体制の整備が進んでいることがうかがわれた。

【呼吸器内科の診療担当】

○COVID-19確定症例を診療している(していた)施設は全体の65.7%→72.1%(192施設)とわずかに増加した。そのうち、3/4以上の症例で呼吸器内科が主科となり診療している、と回答した施設は41.5%→46.3%(89施設)とやや増加した。前回と比較して呼吸器内科が中心的役割を果たしている状況に大きな変化はなかった。

○COVID-19診療の影響で、呼吸器内科の通常診療業務を縮小している施設は57.4%→50.8%(131施設)と前回と比較してわずかな減少にとどまったが化学療法の延期については11.1%→0.8%(2施設)と明らかな減少を認めた。

またCOVID-19を含めての診療業務量増加は、62.5%→50.0%(135施設)、150%以上の深刻な業務量増加18.5%→16.5%(44施設)もわずかな減少にとどまっており、全国的な流行の第一波が収束に向かいつつある状況でも深刻な業務への影響が持続していることが判明した。

【業務上の問題点】

○前回のアンケートと比較するとPPE(個人防護具)の不足による感染のリスク増大について大きなストレスを感じている施設は85.2%→61.2%(163施設)とPPE供給不足の問題は改善傾向にはあるもののいまだ大きな問題であると考えられた。業務量増加に伴う肉体的疲労67.1%→52.3%(139施設)や他診療科との連携に関連する精神的疲労63%→47.7%(127施設)とともに低下傾向にあった。

○COVID-19に関連してスタッフや患者が何らかのハラスメントを受けた、と回答した施設は28.7%→25.9%(69施設)でほぼ前回から変化はなかった。

【COVID-19 の治療について】

○軽症例に対しては 66.9%(178 施設)が対症療法のみ、36.5%(97 施設)がファビピラビル、31.6%(84 施設)がシクレソニド吸入を治療薬として選択していた。

○中等症に対しては 82.3%(219 施設)がファビピラビル、37.2%(99 施設)がシクレソニド吸入、21.4%(57 施設)がナファモスタット、20.3%(54 施設)がレムデシビル、16.2%(43 施設)がステロイドを治療薬として使用していた。

○重症例に対しては 64.3%(171 施設)がファビピラビル、60.5%(161 施設)がレムデシビル、50%(133 施設)がステロイド、46.6%(124 施設)がナファモスタット、37.2%(99 施設)がシクレソニド吸入、26.3%(70 施設)がトシリズマブを治療薬として使用していた。